

<講演抄録>1. マイクロ波画像伝送による臨床教育システム(第37回東北大学歯学会講演抄録)(一般演題)

著者	庄司 茂, 堀内 博
雑誌名	東北大学歯学雑誌
巻	19
号	2
ページ	191-191
発行年	2000-12
URL	http://hdl.handle.net/10097/31735

第 37 回東北大学歯学会講演抄録

日時：平成 12 年 6 月 22 日（木）

場所：東北大学歯学部 B 棟 1 階講義室

—— 一 般 演 題 ——

1. マイクロ波画像伝送による臨床教育システム

庄司 茂，堀内 博（東北大学歯学部第一保存）

歯科臨床教育において、学生ばかりでなく研修医等が実際の治療状況を見学することの重要性は論を待たない。しかし、大学などの教育機関で臨床見学は、特定の場所以外困難なのが現状である。この困難さの原因は、治療台周囲スペースの少なさや、治療用小器械が多いことなどがあげられる。

このような問題を解決し、歯科一般見学実習の充実化を図るために、ケーブルを必要としないマイクロ波画像伝送システムを構築した。画像撮影には、1.2 Ghz マイクロ波、出力 10 mWCCD カメラ三台（診断全体 Melco 社製 CVU-T25, 診療手技 RF System 社製 PRO5, 口腔内 RF System 社製 Satellite Scope V）を用いた。受信機を通して治療台から離れた別室の見学希望者に 4 画面分割テレビ画像として提示するとともに、見学者からのマイクを通しての質問に答えたり、希望部位にカメラを向けることを目的としている。また、伝送画像を録画し自己研修を充実化させるために、診療状況ばかりでなく患者の全身状態情報（血圧変化：Ohmeda 社製 Finapres, ストレス変化：発汗量 Suzuken 社製 Perspiro）のデータをもビデオ画像に取り込めるようにした。

本学臨床実習生 6 名を対象に本教育システムを試行した結果、無影灯下での画像ではホワイトバランスに問題があったものの、これまでの診療台脇での見学よりも充実した勉強ができるとの評価が学生から得られた。また、ビデオ画像による研修では、自己の治療状況が理解でき、さらには指導者より指導・助言ばかりでなく学生相互の意見交換が可能なことより、今後の診療改善および患者の全身状態把握に役立つとの考えがしめされた。

2. 埋伏した同側の上顎 3 前歯を牽引した 2 症例

佐藤亨至，三谷英夫（東北大学大学院歯学研究科 発達加齢・保健歯科学講座顎発達・咬合形成学分野）

矯正臨床において埋伏歯に遭遇する機会は多く、その処置に苦慮することが少なくない。今回、同側の上顎 3 前歯が埋伏し、審美障害を訴えていた 2 症例を経験したので若干の知見を交えて報告する。

【症例 1】12 歳 9 ヶ月の男子。321 の埋伏と非対称を伴う骨格型下顎前突症と診断された。まず 3 の牽引後に 21 の牽引を行った。固定源として下顎の歯列も利用した。その後、反対咬合と歯列の非対称の改善を行った。保定開始後 6 年経過したが、埋伏歯の歯根吸収や歯周疾患等の問題は生じていない。

【症例 2】8 歳 11 ヶ月の女子。123 の埋伏を示していた。23 牽引後に 1 も含めて誘導・排列し、現在保定観察中である。

いずれも局所的原因による埋伏と考えられ、咬合形成および審美的観点から 3 前歯とも牽引誘導を行った。埋伏歯の処置に当たっては、まずその原因の推定を行ったうえで、歯胚の 3 次元的位置の確認や、歯根の屈曲・骨性癒着・隣在歯の歯根吸収の有無等を考慮することは言うまでもないが、多数歯を牽引誘導する場合には適正な牽引力と固定源の確保にも十分な留意を払う必要がある。

3. 舌側からの矯正における簡易セットアップ法

新坂 幸浩（にいさか矯正歯科）

近年、審美性の要望から舌側からの矯正を行なう機会が増えている。この際、正確なインダイレクトボンディングを行なうのが一般的であるが、セットアップ模型を作成しなければならない煩雑さがあり、治療の術式と共に、術者にとってのネックの一つとなっている。ただ、セットアップによりオーバーコレクションやインアウトの調整など、得られるメリットも大きい。

そこでメリットを活かしつつ、技工の簡略化を目的